

人間学部心理学科の取り組み

落 合 正 行 (人間学部心理学科)

心理学科の特色ある教育として、人間学特講における授業を行ってきた。

ここでは、まずこの授業の趣旨について述べ、それからこれまでのこの授業での取り組みについて紹介をする。次に、2003年度の活動について報告し、最後に今後のあり方について考えることにする。

1 「人間学特講(一)」の趣旨

大学の授業においては、単一の領域に関する講義が中心となっている。しかし、人に関するあらゆる領域と関係しているという心理学の特徴を考えると、心理学の領域のみを教授することでは十分ではない。むしろ、心理学以外のさまざまな領域と連携することにより問題としていることがらの様々な意味を知ることによって、それぞれの意味から派生する問題を予想して心理学的にその問題を扱うことが必要だと考えられる。

この講義の趣旨は、「人間学特講(一)」の授業において心理学科の特色ある教育を実現しようというものである。そして、この科目は心理学科の総合科目でもある。この授業は、特定の学問領域の紹介や解説をするのではなく、課題を中心に据えて、さまざまな学問分野からその課題を眺めることで、その課題についてのより総合的な理解を目指すものである。すなわち、この授業では単に学問の紹介をするのではなく、課題を中心に据え、その課題を解くには様々な道(学問領域)があること、それぞれの分野で特有のアプローチや解決が為されようとしていること、そして何よりも単一学問領域では見えてこない意味を理解することをめざしたものである。実際、私たちにとって意味のあることは、問題の解決であり、その際に学問の領域にこだわる意味はないと考えられる。そこで、これからの学問を担う学生に対して、学問領域の枠にとらわれない考えで問題を眺め、解決することの意義を理解してもらおうとするのがこの授業の目的でもある。この目的を達成するために、授業の形態も1人の教員は1回の講義をするというように、多数の教員が毎回代わり同じテーマについて異なるアプローチを学生に提供するというオムニバス形式をとっている。

受講生の便宜を図るために、資料として心理学論集を発行してその中にこの授業の資料を特集として掲載することとし、受講生に配布することとすると共に、心理学論集は追手門学院大学の全ての教員とすべての心理学科学生にも配布することとしている。

2 これまでの取り組み

これまでのテーマは以下の通りである。

1996年度

テーマ：老いることの意味

講演会 関 殉一（神戸国際大学）：「生涯発達と自己実現」

1997年度

テーマ：「個」の意味について

講演会 濱口恵俊（滋賀県立大学人間文化学部）：「複雑系としての人間・社会システム」

1998年度

前期テーマ：「言語」について

後期テーマ：「遊び」について

講演会

中田武仁（国連ボランティア名誉大使）「今、何故、ボランティアか 私たちはみんな必要とされている人たちなのです」

1999年度

テーマ：心理学と社会

講演会 志水英二（大阪市立大学工学部電気工学科）：「21世紀の技術は「心」に向かう！」

2000年度

テーマ：「自然と文化」

講演会 田中 滋（龍谷大学社会学部）「自然環境保護運動と消費社会」

2001年度

テーマ：大学生

講演会 白井利明（大阪教育大学）「時間的展望からみた大学生」

2002年度

テーマ：「21世紀の人間性の探求：「世代間比較からみえる人間性」

趣旨は以下の通りである。

この授業は、心理学科の特色ある教育の一環として位置づけられている。また、心理学科の総合科目でもある。この授業は、特定の学問領域の紹介や解説をするのではなく、課題（今年度のテーマは「世代間比較からみえる人間性」）を中心に据えて、さまざまな学問分野からその課題を眺めることで、その課題についてのより総合的な理解を目指すものである。具体的には、「世代間比較からみえる人間性」というテーマに対して、特定の心理学の領域からだけでなく、青年心理学、認知心理学、カウンセリング心理学、臨床心理学など種々の心理学の分野から、さらに経済学、経営学、文学、教育学など異なる学問分野からみると「世代間比較からみえる人間性」

人間学部心理学科の取り組み

がどのようにとらられているか、何が問題となっているか、それぞれの学問分野では「世代間比較からみえる人間性」のどのようなことについて如何に説明しようとしているのかについて明らかにすることで、受講生が「世代間比較からみえる人間性」というテーマに関して多様なとらえ方を理解し、さらにその多様な意味についても理解し、それらを各自で総合して自分の考えを構築する足がかりとすることを期待している。従って、この授業では、世代間比較からみえる人間性の様々な理解のあり方を習得するとともに、各学問分野の特徴についても理解するとともに、さらに「世代間比較からみえる人間性」を例として様々な考え方について理解すること、様々な視点から眺めるといことで評価の基準の習得、多様な考えをまとめる総合能力、自分の考えを感想やレポート試験でひとにわかるように伝える表現能力等を育成することを目指している。

参加教員と講義テーマ

西岡健夫（経営学部国際経営学科）：個人化・流動化と世代間ギャップ

DeSilva（経営学部国際経営学科）：企業文化と経営理念

三川俊樹（人間学部心理学科：カウンセリング心理学）：組織労働者のライフパタン - 成人期の生きがいと生き方

李 慶国（文学部アジア文化学科）：変わり行く中国人の婚姻観・離婚観

柏原全孝（人間学部社会学科）：若いやつら世代の20年

佐々木英一（人間学部心理学科：比較教育学）：「教養」問題から見た世代間相違

井上知子（人間学部心理学科：青年心理学）：21世紀に高齢を生きる

倉戸由紀子（人間学部心理学科：臨床心理学）：若者世代の場合

石王敦子（人間学部心理学科：認知心理学）：コミュニケーションのギャップ - 世代間のメタ認知の違い

Schlunze（経営学部国際経営学科）：国際経営とマーケティングの視点から見た世代間相違

講演会 鷲田清一（大阪大学文学研究科教授）「さみしい時代」

以上が、これまでの実績である。次に、今年度の取り組みについて述べる。

3 2003年度の取り組み

2003年度も引き続き、これまで同様の形式で特色ある教育を行った。以下に、2003年度の実績を示しておく。趣旨は以下の通りである。

2003年度のテーマは、「科学技術が人間性に与える影響」である。科学技術がもたらす道具の問題は、今日のIT革命の時代という社会の変化が激しい時代の中で考えてみる価値のあるテー

[] 各学部・学科の「特色ある教育」報告

マである。というのは、ますます科学技術により生み出される道具が多くなり、私たちはそのような道具を否応なしに使わざるを得ない状況の中で、科学技術のもたらす道具が人間に与える影響について考えておくことは意味のあることであろう。具体的には、工学、言語情報学、意志決定、経済学、社会学、歴史学、また心理学においては臨床心理学、社会心理学、認知心理学等の視点から上記のテーマについて、さまざまなアプローチを紹介する。そして、異なる学問分野では、それぞれこのテーマについてどのようにとらえられているか、何が問題となっているか、それぞれの学問分野では何を如何に説明しようとしているのかについて提示することで、受講生がこのテーマに関して多様なとらえ方を理解し、さらにその多様な意味についても理解し、それらを各自で総合して自分の考えを構築する足がかりとすることを期待する。

次に、2003年度の具体的活動について示しておく。

2003年度の活動

テーマ：21世紀の人間性の探求：「科学技術が人間性に与える影響」

参加教員と講義テーマ

柄尾真一（経済学部国際経済学科）：PCの発展と論理的思考

東 正訓（人間学部心理学科：社会心理学）：無責任な科学技術の誤用・乱用はなぜ起きるのか

永野浩二（人間学部心理学科：臨床心理学）：豊かな社会のゆるやかな空虚

見市 晃（経営学部経営学科）：みんなが、科学技術に影響を与えてください

正信公章（文学部アジア文化学科）：インターネット情報とわたし

坂上佳隆（経営学部経営学科）：合理的意志決定の基礎

城野 充（人間学部社会学科）：メディアの発達とリアリティの変容

落合正行（人間学部心理学科：認知発達心理学）：科学技術が生み出す道具の心に与える影響
について

福島孝博（文学部英語文化学科）：コンピュータとことば

瀧端真理子（人間学部心理学科：博物館学）：オンライン社会教育のゆくえ

村上 亨（経済学部経済学科）：科学技術と時間

小花和昭介（人間学部心理学科：臨床心理学）：新幹線の駅はなぜ寂しいのか

講演会 阿波啓造（関西大学工学部助教授）「リハビリ・トレーニングと工学」

次に、来年度の取り組みについて示しておく。

4 2004年度の取り組みおよび今後の展望

2004年度は、これまで通りの方法で行う。2004年度のテーマは「21世紀の人間性の探求：豊かさとは何か - 豊かさが人間性に与える影響 - 」である。このテーマの選択理由として、例えば科学技術の進歩、社会制度の整備などにより一見豊かになったかのように見えるが、科学技術で生み出された豊かさとは何か、そしてそれが人間性にどのように影響するかを検討することは、21世紀においてのひとつの中心的な問題だと考えられることによる。趣旨は以下の通りである。

豊かさの問題は、今日のIT革命の時代という社会の変化が激しい時代の中で、物質文化のなかで考えてみる価値のあるテーマである。というのは、物質的生活の豊かさが心にどのような影響を及ぼすのか、また心の豊かさとはどのようなものか、心の豊かさはどのように培われるものなのか、また心の豊かさが物質の豊かさにどのような影響を及ぼすのかについて考えておくことは意味のあることであろう。具体的には、経済学、経営学、社会学、歴史文化学、比較思想・比較文化学、そして教育学また心理学においては臨床心理学、発達心理学等の視点から上記のテーマについて、さまざまなアプローチを紹介する。そして、異なる学問分野では、それぞれこのテーマについてどのようにとらえられているか、何が問題となっているか、それぞれの学問分野では何を如何に説明しようとしているのかについて提示することで、受講生がこのテーマに関して多様なとらえ方を理解し、さらにその多様な意味についても理解し、それらを各自で総合して自分の考えを構築する足がかりとすることを期待している。

さらに、心理学科の学生にとって実社会の中で心理学がどのように生かされているのか、また心理学関連の職業においてはどのような内容の活動が行われ、その準備にはどのようなことが必要かといったことを知ることは、心理学をまなび、それを生きていく上でどのように意味を持って生かしてゆけるかを考える上で意味のあることだと考えられることから、これまでのテーマを定め近接領域の学問における総合的な問題解決に代わり、心理学の特講の授業で、心理職に就いている心理の専門家に話を聞く授業を行う予定である。

今後の大学における授業の意味として重みを持つようになるのは、社会の中での心理学の意味であろう。それとともに、心理学を学ぶことで生きていく上でどのような意味を持つのかということを考えることができる授業が必要とされるのではないかと考えている。